

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2025年11月1日

第460号



社会福祉法人
小羊学園

住 所 〒433-8105
静岡県浜松市中央区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

HP <http://www.kohitsuji.or.jp/>

発行人 雨宮 寛

印刷所 アド・アール株式会社



今号のMENU

1P-5P...

【特集】

つばさ静岡20周年

5P...

障がいのある人に
やさしい外出スポット

6P...

寄贈・受配報告
リレートーク
支える会報告 他



コロナ禍を経て5年ぶりのフェスタつばさ 施設前で集合写真♥

20年前、静岡市に重症心身障害児者を支援するという熱い想いを胸に新しい施設を立ち上げました。関西に居を構えていた私も、開設時の看護部長であった杉本民氏のやさしさあふれる笑顔に騙され(もとい、魅了されて)、静岡の地に転居して参りました。それから早いもので20年が経ちました。20年といえは、生まれたばかりの赤ん坊が成人するまで

つばさ静岡は創設20周年という大きな節目を迎えることができました。これは、ひとえに、長きにわたるご支援くださった利用者の方々とそのご家族、ご協力いただいた数多くの企業や事業所、そしてともに働いてきたたくさんの方の職員のおかげかと思えます。心より感謝申し上げます。この日を迎えられた喜びを皆さんと分かち合えることを大変嬉しく思っています。



左：山倉 施設長
右：鈴木 前療育部長

開設20周年にあたって
つばさ静岡 施設長 山倉 慎二

の非常に長い時間ですが、今振り返ってみるとあつという間に過ぎ去ったように思います。

新しい施設を立ち上げるということとは冥利に尽きる経験でもあり、楽しいことがたくさんありました。ゼロからのスタートだったこともあり、職員もみな若く(数名を除いて)、気持ちも常に前向きで、チャレンジ精神が旺盛で、次々と新しいことに挑戦してきました。職員が企画した遊び、イベントや外出の他にも、演奏やダンス、パフォーマンス、コーヒの販売、マッサージ、書道、散髪、フラワーアレンジ、アニマルセラピーなど、数えきれない多くのボランティアの方々にお越しいただきました。いつも笑いの絶えない明るい施設であつたと思います。

もちろん、楽しいことばかりではありませんでした。この20年変わらないものと言え、凛とした富士山の姿くらいなもので、この間、福祉制度の変遷や労働環境の変革に翻弄され、気候変動、物価高や慢性的な職員不足など、数々の試練に直面してきました。中でもコロナ禍は私たちの生活を一変させてしまう衝撃的な出来事で、その余波は今も根強く残っています。ただ、それら数多くの困難も、皆様からのご支援と、職

員一人一人の献身的な働きによって乗り越えることができました。こうして作り上げてきた皆様との信頼関係こそが、つばさ静岡の最大の財産だと確信しています。

先日、つばさ静岡恒例のイベント「フェスタつばさ」を盛大に行うことができました。前日の雨が嘘のように好天に恵まれ、利用者のご家族だけでなく近隣地域の多くの人が集まって下さいました。用意していたお弁当やお菓子などはあつという間に売り切れてしまったようで、食べ



5年振りのフェスタつばさ

物にありつけない人もいたのではないのでしょうか。

この地につばさ静岡が誕生するには、そして存続するためには、何より地域の方々のご理解が不可欠で、地域の方々との絆が大切です。本来「フェスタつばさ」は地域の方々に「つばさ静岡」を知っていただくため、地域の方々と交流することを目的として行ってきたものです。しかし、コロナ禍においては、施設外の人と関わることをできるだけ避けるような生活様式となってしまうために、地域の方々とはたいへん大きな障壁ができてしまいました。そんな中、「フェスタつばさ」は施設内だけの小規模なイベントとして続けていました。たいへん歯がゆい決断でしたが、入所されている方々を守るためには仕方のない判断であつたかと思っています。

そして今年度はようやくコロナも落ち着いてきたこともあり、また特に20周年の大きな節目であつたことから、オープンな形での「フェスタつばさ」を5年ぶりに再開することができました。家に閉じこもってばかりだった者が、長い年月のあとようやく外へ飛び出していくことができたような晴れやかな気分であり、やはり地域へ出て、開かれた施設と

して、多くの人と交流することの大切さとありがたさを実感することができました。

コロナ禍前の規模とまではいきませんでしたが、利用者のご家族、地域の方々、元職員や学校の先生など、数百人もの人の参加があり、音楽やダンス、大道芸のパフォーマンスなどで、1日を楽しく過ごしていたのだのではないかとと思っています。

さて、数年前から、つばさ静岡では施設目標として「美意識を磨く」を掲げています。何度か、その取り組みを「つのぶえ」の中でも紹介してきましたので、ご存知の方も多いかと思っています。

「美意識」とは何でしょうか。ここでいう「美」とは見た目の「美しさ」のことだけではありません。「心」の美しさを意味しています。「美しさ」を追求することは、喜びや楽しさ、心の豊かさにつながります。延いては幸福や平和につながっていくことでしょう。

道端に咲いている花を見て、美しいと感じるかどうかはその人が美しい心をもっているかどうかにかかっています。

重い障害をもつていても、美しさを感じることはできます。なぜなら彼らはみな純真で穢れのない美しい

心を持っているからです。
美しいと感じる心を持っているからこそ、幸せを感じることのできるのだと信じています。重症心身障害児者に、少しでも幸せを感じてもらえるように支援することが私たち健康を与えられた者の使命だと思えます。そして彼らの幸せが、そのご家族の幸せにつながり、きつと働く職員の幸せにも繋がっていきます。

改めまして、皆様の長年にわたる



職員が感じた
美しさ

つばさ静岡特集

「各ゾーンが大切にしてきたご縁・絆」

今年はつばさ静岡が開所して20年の節目の年です。

今回は、それぞれのゾーンが温め続けてきたエピソードをご紹介します！

ご支援に深く感謝申し上げます。未来に向けて、社会から必要とされる施設として、誰からも「つばさに来てよかった」と言ってもらえるような「明るく、楽しく、健やかな」毎日を送っていただけるような、そして何より「美しい」施設であり続けたいと思っています。これからも職員一丸となって邁進して行きたいと思っておりますので、今後変わらぬご支援、ご協力、そして「強い絆」をより強くお願い申し上げます。

入所当初3歳だったNさんとIさんは今年度で23歳になります。卒業した際は授業が無くなり人との関わりが少なくなること心配していました。ボランティアを募集したところ元中央特別支援学校の先生が月に1〜2回Nさんに訪問し1時間じっくりと関わってくださいました。新型コロナウイルスの拡大により、残念ながらこの取り組みも中止になってしまいました。今では先生から季節の変わり目になるとかわいい手作りの贈り物が届きます。

またIさんの担任だった先生はオンラインで関わりをもってください。今では訪問してIさんと関わってくれています。卒業してもなお、生徒を想ってくださいる2人の先生にはとても感謝しています。いつまでも大切にしていきたい「ご縁」です。

つくしA 生活支援員



いただいた贈り物

「続いていくご縁」

「つくしB」は医療依存度が高い入所ゾーンで「生活の場としての看護」を大切に日々のケアをしています。この20年で入所者様の加齢に伴う重症化もあり、こども病院や静岡県立総合病院など地域医療機関との協力が欠かせません。

医療・介護界限では近年「多職種連携」「地域連携」という言葉が言葉のようになっていきます。まさに「ご縁」を大切にすること。事務的な手続きだけではなく「その人のために」ということを念頭に丁寧な連携を心掛けています。

また「つくしB」のスタッフは他病院・施設経験者が多く、ケアに大切な連携や情報交換のための基盤をそれぞれが持っています。これも地域連携のご縁に繋がっていると思います。

つくしB



リビングで大集合

「大切にしてきた絆・ご縁」

